

【様式】

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立石薬師高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主…自ら努力して学び、自分の進路を自分で切り拓く生徒を育てる学校 ○ 創造…地域から信頼され、強い責任感を持ち、将来の社会に貢献する生徒を育てる学校 ○ 敬愛…笑顔にあふれ、人を思いやる豊かな人間性を持つ生徒を育てる学校
(2) 育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎基本の学力を身につけ、主体的に学習に取り組み、生涯にわたり学ぶ力 ○ キャリア教育を通して自己の進路について考え、社会の一員として貢献できる力 ○ 豊かな人間性を身につけ、積極的にいじめ防止に向けて行動できる力を育てる。
(2) 【グラデュエーション・ポリシー】	
ありたい教職員の姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 互いに声を掛け合い、協力し合って、「チーム」として教育活動に取り組む教職員 ○ 授業を大切にし、研鑽を重ねて、授業力向上に取り組む教職員 ○ 生徒に寄り添い、笑顔と元気を絶やさず、丁寧に粘り強く生徒の指導に取り組む教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ いじめや暴力のない安全で安心な学校 ○ 達成感や満足感が感じられる充実した高校生活 ○ 基礎学力の定着 ○ 進路実現 <p>【保護者等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ いじめや暴力のない安全で安心な学校 ○ 進路実現 ○ 高校卒業後の自立に向けた学力の定着と社会性の涵養 <p>【地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 公共心やマナーの育成 ○ 地域に貢献する人材の育成 <p>【進路先】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 社会的・職業的自立に必要な資質・能力の育成 				
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">連携する相手からの要望・期待</th> <th style="text-align: center;">連携する相手への要望・期待</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>【保護者等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員のきめ細かな指導や支援 ○ 学校の取組や生徒の様子が見える化 <p>【地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域に貢献する人材の育成 ○ 生徒の地域行事等への参加 <p>【進路先】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 社会的・職業的自立に必要な資質・能力の育成 <p>【出身中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎学力と基本的な生活習慣の定着 ○ 教職員のきめ細かな指導や支援 <p>【杉の子特別支援学校石薬師分校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒や保護者が安全安心を感じられる学校 ○ 身近な共生社会として、学校行事等での両校生徒の交流 </td> <td> <p>【保護者等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育活動への理解と協力 ○ 学校との連携強化 <p>【地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 職場体験等、キャリア教育の推進に向けた協力 ○ 生徒の地域行事等への参加協力 <p>【進路先】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 職場体験等、キャリア教育の推進に向けた協力 <p>【出身中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎学力と基本的な生活習慣の定着 ○ 生徒が充実した高校生活を送れるよう連携を強化 <p>【杉の子特別支援学校石薬師分校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特別な支援を要する生徒の指導に係る助言 ○ 両校の相互理解 </td> </tr> </tbody> </table>	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待	<p>【保護者等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員のきめ細かな指導や支援 ○ 学校の取組や生徒の様子が見える化 <p>【地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域に貢献する人材の育成 ○ 生徒の地域行事等への参加 <p>【進路先】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 社会的・職業的自立に必要な資質・能力の育成 <p>【出身中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎学力と基本的な生活習慣の定着 ○ 教職員のきめ細かな指導や支援 <p>【杉の子特別支援学校石薬師分校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒や保護者が安全安心を感じられる学校 ○ 身近な共生社会として、学校行事等での両校生徒の交流 	<p>【保護者等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育活動への理解と協力 ○ 学校との連携強化 <p>【地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 職場体験等、キャリア教育の推進に向けた協力 ○ 生徒の地域行事等への参加協力 <p>【進路先】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 職場体験等、キャリア教育の推進に向けた協力 <p>【出身中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎学力と基本的な生活習慣の定着 ○ 生徒が充実した高校生活を送れるよう連携を強化 <p>【杉の子特別支援学校石薬師分校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特別な支援を要する生徒の指導に係る助言 ○ 両校の相互理解
連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待				
<p>【保護者等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員のきめ細かな指導や支援 ○ 学校の取組や生徒の様子が見える化 <p>【地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域に貢献する人材の育成 ○ 生徒の地域行事等への参加 <p>【進路先】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 社会的・職業的自立に必要な資質・能力の育成 <p>【出身中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎学力と基本的な生活習慣の定着 ○ 教職員のきめ細かな指導や支援 <p>【杉の子特別支援学校石薬師分校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒や保護者が安全安心を感じられる学校 ○ 身近な共生社会として、学校行事等での両校生徒の交流 	<p>【保護者等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育活動への理解と協力 ○ 学校との連携強化 <p>【地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 職場体験等、キャリア教育の推進に向けた協力 ○ 生徒の地域行事等への参加協力 <p>【進路先】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 職場体験等、キャリア教育の推進に向けた協力 <p>【出身中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎学力と基本的な生活習慣の定着 ○ 生徒が充実した高校生活を送れるよう連携を強化 <p>【杉の子特別支援学校石薬師分校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特別な支援を要する生徒の指導に係る助言 ○ 両校の相互理解 				

(3)前年度の学校関係者評価など		<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒指導上の問題行動への対応は、問題が発生した後の事後指導に追われているように感じる。生徒が主体となった取組を行うなど、未然防止に係る取組を推進していくことが必要である。 ○ 時間外勤務を削減するなど、教職員が働きやすい環境を整える必要がある。業務の見直しや定時退校日を実行性のあるものにするなど、改善が求められる。 ○ 併設する杉の子特別支援石薬師分校と良好な関係を築くためには、両校の生徒・保護者・教職員が互いを知り、理解することが必要である。
(4)現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習習慣が十分身につけていない生徒が在籍していることから、「わかる授業」を通じて、学ぶ楽しさを実感し、学習の仕方をつかむことができる授業づくりへの継続的な取組みが必要。 ○ 安全で安心な学校生活を送るために、支援を要する生徒がいることから、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、発達障がい支援員等の専門人材を積極的に活用することが必要。 ○ 教職員は、生徒の気持ちに寄り添いながら、丁寧で粘り強い指導をしている。教職員は問題を一人で抱え込むことなく、「チーム石高」の一員として、学校組織で対応していく気運を一層推進させることが必要。 ○ 生徒一人ひとりが進路実現に向けて、自主的・自発的に取り組むことができるよう、3年間を見通したキャリア教育の充実が求められる。 ○ 本校生徒と同じ校舎で学ぶ杉の子特別支援学校石薬師分校の生徒が、安全安心を感じられる学校づくりが必要。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員は、学習面や生活面等の教育活動を通じて、生徒に丁寧で粘り強い対応を心掛けている。それに伴い、教職員一人ひとりの負担が増している。業務の整理や効率化等による総勤務時間の縮減に向けた更なる取組が必要。 ○ 併設する杉の子特別支援学校石薬師分校との連携を拡充し、それぞれが持つ教育の専門性や機能を生かした取組ができるよう、交流や情報交換等、一層推進することが必要。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】		<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が学習することの意義を理解し、自主的・自発的に学習に取り組むことができるよう、一人一台端末を効果的に活用して、基礎学力向上に特化した学習活動や個に応じたわかりやすい授業を展開する。 ○ 生徒が社会の中で自分らしく生きていくために、探究的な見方・考え方について、教科を横断した授業研究を推進するとともに、図書館利用を促進して読書に親しむことで確かな学力や豊かな人間性を育成する。 ○ 生徒が進路実現を果たすため、本校独自のキャリア教育プログラム「サクラサク・プラン」を中心に、総合的な探究の時間における進路学習や事業所・関係機関と連携した体験活動を充実することで、3年間を通じたキャリア教育・進路指導を実践する。 ○ 生徒が互いに励まし合いながら成長していくための仲間づくりを大切にするとともに、自己の可能性や適性について自覚を深めるための働きかけを行うことで生徒の行動や意識の変容を促し、社会人として求められるマナーやルールの定着、コミュニケーション能力の育成を図る。 ○ いじめが起きにくい、いじめを許さない環境づくり、いじめの早期発見と早期対応を行うため、生徒によるいじめ防止活動への積極的な参加、いじめ問題解決に向けた実効性のある組織体制づくりを強化する。 ○ 本校生徒が杉の子特別支援学校石薬師分校の生徒とつながり、共に学び、支え合い、成長できるよう取組を推進する。
学校運営等		<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科指導や生徒指導、進路指導等のすべての教育活動において、教職員が一体となって取り組み、やりがいを持って職務を遂行できるよう、教職員同士が日常から互いに声を掛け合い、協力し合うとともに、知識やノウハウ等を共有し、互いに教え合い、高め合うなど、「チーム力」の高い集団づくりを行う。 ○ 地域社会から信頼される学校づくりを推進し、学校が生徒にとって安心して楽しく通える魅力ある環境となるよう、家庭・地域と連携しながら、校内、学校周辺、通学路の美化活動や環境整備に努めるとともに、大規模災害に備えるための防災教育や危機管理体制づくりを推進する。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	○ 志望動機が明確で、高校生活に目的意識を持つ生徒 ○ 規範を守り、学校生活に積極的に取り組める生徒 ○ 基礎的な学力と学ぶ意欲を備え、向上心を持って学習する生徒
-------------------------------------	---

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
授業力の向上・学習指導の充実	○ 「石薬師高校版インクルーシブ教育システム」を活用し、ユニバーサルデザインの視点に基づき、全教職員が共通理解のもと、統一したスタイルで授業を進めることにより、生徒が安心して授業を受けることができるしくみづくりを進める。	○ 全教職員で「石薬師高校版インクルーシブ教育システム」に取り組み、毎学期末に振り返りを行い、改善につなげた。	◎
	○ 学び直しとわかる授業の実践を通して、生徒の基礎学力を定着させる。	○ 特に国語・数学・英語において、習熟度別の少人数授業や長期休業期間中に補習等を実施することで、生徒の基礎学力向上に努めた。	◎
	○ 授業やアサガク、その他活動における一人一台端末の積極的な活用と探究学習および観点別学習状況評価の充実を図り、生徒の学習改善につなげる。	○ 授業やアサガク等で、一人一台端末の活用を推進し、生徒の主体的な学びの実践に努めたが、その定着に課題が見られる。	
	○ 授業力向上週間を設定し、生徒の学習状況を踏まえながら、教職員が教科を越えて学び合い成長するための授業研究を行う。	○ 授業力向上週間では、教科の垣根を越えて、互いの授業を見て意見交換し、授業改善につなげることができた。	
	【活動指標】 授業の始めに授業のねらいと目標を明示するなど見通しを示している教職員の割合 100%	◆「本時授業のねらい・目標等を明記している」と回答した教職員の割合 76.0%(前年度 92.9%)	
	【活動指標】 教職員の授業研究への参加 1回以上	◆「授業見学の参加1回以上」と回答した教職員の割合 100%(前年度 100%)	

	<p>【成果指標】 学校満足度調査で授業内容の理解について肯定的な回答をした生徒の割合 80%以上</p>	<p>◆「授業内容を理解できる」と回答した生徒の割合 81.3%(前年度 77.4%)</p> <p>「授業に満足している」と回答した生徒の割合 86.8%(前年度 88.3%)</p>	◎
<p>生徒指導の充実・豊かな人間性を育む教育の充実・命の尊さを理解しいじめのない学校の実現</p>	<p>○「石薬師高校版インクルーシブ教育システム」を活用し、生徒への声のかけ方等、全教職員が一致した考え方で指導にあたり、生徒の心の成長を促す。</p> <p>○ 生徒の些細な変化を見逃さず、気になる生徒には教職員が積極的に声掛けを行い、必要に応じて面談や家庭と連携した対応を行う。</p> <p>○ 生徒同士が、お互いの人権を尊重し、思いやりの心を持って、いじめや暴力のない安全で安心な学校づくりに努める。</p> <p>○ 模範生徒表彰制度を継続し、真面目に努力する生徒を激励するとともに、生徒の意識の醸成を図る。</p> <p>○ 挨拶運動や清掃活動、安全安心な学校づくり等、生徒が主体となった取組を推進する。また、生徒会役員等が中心となり、杉の子特別支援学校石薬師分校の生徒との交流を進める。</p> <p>【成果指標】 学校満足度調査で学校生活の安心感について肯定的な回答をした生徒の割合 80%以上</p>	<p>○「挨拶や声かけを生徒に対して行っている」と回答した教職員の割合 100%(前年度 100%)</p> <p>「生徒のよい言動を認めて声をかけている」と回答した教職員の割合 92.6%(前年度 100%)</p> <p>○全教職員で取り組んだ。特に学年主任と担任が中心となり、丁寧な生徒や保護者対応を意識し、実践した。</p> <p>○本校と杉の子特別支援学校石薬師分校の生徒が、共に安全で安心な学校生活を送れるよう、生徒会活動や人権教育等とおして、規範意識の醸成に努めた。</p> <p>○毎学期初めに模範生徒を全校生徒の前で表彰し、表彰生徒の意欲向上につなげた。</p> <p>○挨拶運動や清掃活動、いじめ防止の啓発活動等、生徒会役員が中心となって、主体的な取組を推進することができた。また、生徒会役員が、分校生徒と定期的に交流したり、本校の学校行事に分校生徒が参加したりするなど、昨年度以上に交流を深めることができた。</p> <p>◆「学校生活を安心して過ごせている」と回答した生徒の割合 81.3%(前年度 86.3%)</p>	◎

	<p>【活動指標】 模範生徒表彰の実施回数 3回</p> <p>【活動指標】 生徒が主体となった挨拶運動の回数 3回以上 生徒が主体となった学校周辺の清掃活動の回数 3回以上</p>	<p>◆3回実施</p> <p>◆挨拶運動 6回実施 清掃活動 2回実施 花いっぱい運動 1回実施 いじめ防止啓発(ピンクシール運動) 5回実施</p>	<p>◎</p> <p>◎</p>
キャリア教育(進路指導)の充実	<p>○ 高校卒業後の自らの進路について、早期の段階から意識ができるよう、入学時から必要な情報を提供し、生徒の状況に応じたきめ細かな相談体制を構築する。</p> <p>○ 生徒が目標を明確に持って進路実現をしていくために、インターンシップや模擬就職活動を行う。</p> <p>○ キャリア教育計画「サクラサク・プラン」を見直しながら、系統的なキャリア教育、進路指導を実践する。</p> <p>【活動指標】 個別・三者面談の実施 4回</p> <p>【成果指標】 学校満足度調査で目的意識の有無について肯定的な回答をした生徒の割合 80%以上</p>	<p>○「サクラサク・プラン」(本校独自キャリア教育プログラム)を、各学年とも計画どおり実施することができた。今年度の就職試験では、応募前2社見学、進路実現ウィーク等の取組により、内定率が向上(一次89.2%、二次100%)</p> <p>○昨年度に引き続き、鈴鹿市役所と連携して2学年を対象にインターンシップを実施するとともに、地元の事業所が参加する就職フェアに出席するなど、早期段階からの進路意識の醸成に努めた。</p> <p>○「サクラサク・プラン」の更なる充実を図るため、一部内容を見直した。</p> <p>◆4回実施</p> <p>◆「高校進学のために学業や高校卒業後の進路」と回答した生徒の割合 73.5%(前年度91.4%)</p>	<p>◎</p> <p>◎</p>

改善課題

- ・ 「石薬師高校版インクルーシブ教育システム」については、全教職員で取り組み、振り返りを通して課題の共有が進んだ。一方で、生徒の努力を評価する肯定的評価の仕組みが十分とは言えず、基礎学力の定着や学習意欲の向上につながる指導の工夫が課題である。
- ・ 日常的な挨拶や声掛けを通して生徒との関係づくりに努めているが、より安定した生徒指導の実現に向けて、教職員の生徒対応スキル向上のための研修や支援体制の充実が課題である。
- ・ 「サクラサク・プラン」は校内に定着しているが、進路指導部と学年との連携強化が必要である。また、事業所見学などのミスマッチ防止策を行っているものの、卒業後1年目の離職率が高く、実践的な指導や事前準備の充実が課題である。

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>教職員のチームワークの向上と不祥事を許さない職場づくり</p>	<p>○ 教職員が互いに声を掛け合い、学年や分掌を越えて協力して教育活動に取り組み、情報共有を密にして、何事も一人で抱え込まないようOJTで学びあえる職場風土をつくる。</p> <p>○ 定期的にコンプライアンス・ミーティング、オフサイト・ミーティングを実施し、不祥事を許さない、風通しの良い職場づくりに努める。</p> <p>○ いじめの問題への対応等、多様化・複雑化する教育課題について、教職員の指導力と対応力を強化するため、教職員研修会を定期的に実施する。</p> <p>【活動指標】 コンプライアンス・ミーティングの実施回数 4回 オフサイト・ミーティングの実施回数 3回</p> <p>【成果指標】 教職員を対象にしたアンケートにおいて、教職員のコミュニケーションが図れているということについて肯定的な回答をした教職員の割合 100%</p>	<p>○生徒指導上の問題行動への対応では、「チーム学校」を意識し、学校組織での対応を実践できた。また、突発的に発生した事案対応では、学年や分掌の垣根を越えて、チームで迅速かつ丁寧な対応につなげることができた。</p> <p>○教職員が関わる不祥事があるたび、朝の打合せで全教職員に共有し、注意喚起するなど、普段から不祥事を許さない機運の醸成に努めた。また、今年度から全教職員で「私のコンプライアンス」(チェックシート)に取り組み、毎月末の自己評価と学年・分掌単位での振り返りの場を設定した。</p> <p>○年 10 回来校するいじめ対応アドバイザー(弁護士・臨床心理士)を積極的に活用し、効果的な生徒への指導や支援につなげることができた。また、アドバイザーによる教職員研修を 2 回実施し、教職員のスキルアップを図った。</p> <p>◆11 回実施 1 回実施</p> <p>◆「教員同士で話しあったり、相談したりしている」と回答した教職員の割合 94.1%(前年度 92.9%)</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>

<p>教職員が働きやすい環境づくり</p>	<p>○ 教職員が心身の健康を維持し、意欲的かつゆとりを持って教育活動に取り組めるよう、時間外労働時間の削減に努め、休暇が取得しやすい職場づくりを推進する。また、校長面談やオフサイトミーティング等で把握した業務削減や働きやすい職場づくりに関わる教職員の声を、積極的に反映する。</p> <p>○ 担任や分掌が担っている業務見える化し、副担任や他分掌のサポートを増やすなど学校全体で業務に取り組む体制づくりを推進する。</p> <p>○ デジタル採点システムなどICTを活用した業務の省力化に取り組むとともに、過重となっている業務を見直し、校務のさらなる精選を図る。</p> <p>【活動指標】 設定した日の定時に退校できた教職員の割合 100%</p> <p>【活動指標】 予定どおり休養日を実施できた部活動の割合 100%</p> <p>【活動指標】 放課後に開催して 60 分以内に終了した会議の割合 100%</p> <p>【成果指標】 時間外在校時間が年 360 時間を超える教職員数 0人</p> <p>時間外在校時間が月 45 時間を超える教職員の延べ人数 0人</p> <p>【成果指標】 一人あたりの月平均時間外在校等時間 10 時間以下</p> <p>一人あたりの年間休暇取得日数 15 日以上</p>	<p>○毎月、定時退校日を設けるとともに、当日に退校できなかった者については別日に取得できる定時退校週間を設定するなど、取得率の向上に努めた。しかし、十分な定着には至っていない。今後は、計画的な業務遂行を日頃から教職員に意識させるなど、取組の一層の強化が必要である。</p> <p>○毎日のショートホームルームは、担任だけでなく副担任も入って実施している。また、出張等で業務に支障が生じる学年や分掌がある場合は、垣根を越えた教職員のサポート体制が整っている。</p> <p>○一部の定期考査でデジタル採点を取り入れるなど、ICT の活用が進んでいるが、業務の省力化までには至っていない。</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 明るくまとまりのある教職員集団は本校の強みであるが、現状に満足せず、全教職員が一丸となって生徒指導や支援体制のさらなる強化を図る必要がある。また、不祥事を未然に防ぐ職場づくりを継続して推進することが課題である。 ・ 学校だけでは対応が難しい事案も増えており、保護者や中学校、関係機関との連携の重要性が高まっている。担任を中心とした保護者との信頼関係づくりと、教職員間の情報共有・報告連絡相談を徹底し、関係 			

機関との連携をさらに強化することが課題である。

- ・ 突発的な事案対応によるストレスや業務の遅れが、時間外在校時間の増加につながる場合がある。教員定数の減少も踏まえ、業務の効率化や支援体制の充実を図り、教職員が働きやすい環境づくりを進めることが課題である。

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none">・ 「石薬師高校版インクルーシブ教育システム」の取組を継続し、生徒一人ひとりの努力や成長を認める教育を充実させるとともに、基礎学力の定着や学習意欲の向上につながる指導の工夫を進めてほしい。・ 教職員の生徒対応スキル向上のための研修を充実させるとともに、教職員間の情報共有を徹底し、安定した生徒指導体制の構築を図ってほしい。・ キャリア教育プログラム「サクラサク・プラン」を軸に進路指導部と学年の連携を強化し、職業理解を深める取組を充実させるとともに、短期のインターンシップなど体験的な学習の機会の導入も検討してほしい。・ 学校と保護者の連携を強化するため、年度初めに担任が保護者へ電話連絡を行ったり、希望する家庭への家庭訪問を実施したりするなど、学校の指導方針を丁寧に伝える取組を検討してほしい。・ 本校の強みである教職員のチームワークを生かし、生徒指導や支援体制のさらなる充実を図るとともに、不祥事防止に向けた職場環境づくりを推進してほしい。・ 業務の効率化や支援体制の充実を進め、教職員が安心して働くことができる環境づくりを継続して進めてほしい。
---------------------	--

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・ 「石薬師高校版インクルーシブ教育システム」の取組を継続・拡充し、生徒一人ひとりの努力や成長を認める肯定的評価の仕組みを整備する。・ 基礎学力の定着や学習意欲向上につながる指導方法の工夫を全教職員で共有・実践する。・ 教職員の生徒対応スキル向上のための研修やワークショップを充実させ、安定した生徒指導体制を構築する。・ 「サクラサク・プラン」を軸に進路指導部と学年の連携を強化し、職業理解を深める授業や体験的学習の導入を検討する。・ 生徒との日常的な関わり(挨拶・声掛け等)をさらに工夫し、生徒が安心して学べる学習環境を整備する。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・ 教職員全体のチームワークを活かし、生徒指導や支援体制のさらなる充実を図る。・ 不祥事防止のための職場環境整備を継続・推進し、リスク管理体制を強化する。・ 保護者との連携を強化し、担任による年度初めの電話連絡や希望家庭への家庭訪問を実施するなど、学校の方針を丁寧に伝える取組を行う。・ 教職員間の情報共有・報告連絡相談(R-C-S)の徹底を図り、突発的事案対応への迅速な対応と業務負担の軽減を進める。・ 教員定数減少や業務量の増加を踏まえ、業務の効率化や支援体制を充実させ、教職員が安心して働ける環境づくりを推進する。